



卒業アルバムより

9組担任 山浦 巖先生の思い出



牧野 泉

筆者：近影



卒業アルバムより

- 恩師の思い出特集のHP投稿募集をみて、故山浦先生（2022年11月逝去 以下故人）と筆者との懐かしいエピソードを書く気になりました。

大学受験で本意ながら落ちた同期の多くは予備校へと進んで行った。しかし、ほんの少数になるが、予備校にもいかず自宅学習をする諸君もいた。その一人の筆者が、独学時代に故人との間であったストーリーである。浪人となった筆者は、何とか頑張らねばいけないと思っただが、折角つかんだ暇な時間を違う目的でエンジョイ開始してしまった。それは、ナイトクラブで専属バンドをしていた身内から、運転手兼トランペッターとして引き込まれ、ついには7月中旬からステージに立つようになったのである。親からは「浪人の分際なんだから勉強しなくてよいのか」の言葉が日常フレーズだった。

第一章 内申書発行拒否

- 8月お盆明けの学内模試を受けたまま、日々はバンド活動、帰宅後朝まで少し勉強を繰り返している頃に、ハプニングが起きた。それは、9月の終り頃、ナイトクラブで演奏休憩時、楽屋にホステスが来て「ボクちゃん、あんたのこと知っている人が、“彼は〇〇君だ”とか言っているよ」と教えてくれた。早速裏から覗いたら、何と社会科の山岸先生だ。「これはヤバイ、山岸先生と故人は同じ団地で一緒なのだ」と瞬間に感じ不安感が残った。
- その後まもなく、同じ自宅浪人仲間と一緒に内申書を貰いに高校へ行き、故人に発行願いをしたら、以下の説教を延々といただいたのである。

- 1：浪人生は受験のために予備校若しくはそれに準ずる形が本意である。
- 2：自宅学習者は模試は必ず受ける、そして一般模試で学力確認をすること。
- 3：次が君には一番問題なこと！と断られて、

「勉強時間はどのくらいしている？ 模試は何回受けた？」

結論として、「現在の君には学校推薦はもちろん内申書も出せない」と言われたのである。

そして帰り際に、「袋町のクラブでトランペット吹いているんだって？ 君の仕事は勉強だ！ 全国模試など最低3回は受けるよ！」と言われて、すすすごと帰ってきたのである。（次ページに続く）